

# 会誌編集委員会

## 女子部

Number  
25

### “Hello World!”

“Hello World!”と初めて出会ったのは、学部2年生のC言語の授業。時期は違うにしろ、この雑誌をお手に取った誰しもが、一度は出会ったことがあるフレーズではないだろうか。プログラミング言語を習得する際に、お目にかかる決まり文句だ。

インターネット黎明期に、NCSA Mosaicを使って、ネットサーフをした日々。こんなふうに世界と繋がる手段があるんだとわくわくしながらコンピュータールームに日々通ってはいたものの、当時はプログラミングの世界の面白さを感じることができずにいた。しかし、卒業研究で顔認識の研究を始めて、認識精度を向上させるためにどのような前処理をしたらよいのだろうか・・・とアイデア出しをし、それを実現させたいという思いを持ったとき、プログラミングの威力を知った。それから十数年経ち、ある先生から“Hello World!”の意味を教えてくださいました。

プログラミングは、新しい世界を可能にする。それを可能にすべく新しいプログラミング言語を習得するが、その最初にHello World!の文字を表示させる。これは、『私は新たな世界を作り出します』という厳かな宣言にほかならないのである。

ずっと不思議に思っていたことがすっきりしたよう

津田塾大学 稲葉 利江子

な思いであった。まさに、プログラミング言語の習得は、新しい世界を作り出すのだという意味を表明することだったのだ。

私が在籍している津田塾大学では、女性研究者支援センターの主催で毎夏、情報・メディア工房という女子中高生のためのワークショップを開催している。毎年ワークショップ内容は変わるのだが、プログラムと格闘しつつ自分で作ったものを、誇らしげに発表するときの参加者の笑顔は、いきいきとしていて楽しげである。きっと、これまでとは違う新しい世界と出会ったことによる喜びの表情なのであろう。

近年、プログラミングの重要さがさまざまところで叫ばれ、リクルートライフスタイルが調査した「2015年子どもの習い事ランキング」によると、小学生高学年で「習わせたい」習いごとの8位にプログラミングがランクインしている。今後もニーズが高まり子ども向けに教える機会も増加していきだろうと予想されるが、単にプログラミング言語を教えるのではなく、プログラミング言語を学ぶことによって、自分たちで新しい世界を作り出すことができるのだという夢とともに、その楽しさと面白さを学んでほしいと願う。

iPhoneをお持ちの方は、Siri（人工知能エンジン）に“Hello World!”と話しかけてみてほしい。すると、Siriはおちゃめに、print文を読み上げてくれる。